

齊名譽

三角幼時、就表叔柴田瀨洲者學、瀨洲嘗謂曰、讀書宜師天下第一人、當今之世、京師伊藤原藏、即其人也、汝可往而學、於是即負笈遊東涯門、

〔神皇正統記聖武〕この御代略中、おほくの高僧、他國より來朝す、南天竺の波羅門僧正善提といふ、林邑

の佛哲、唐の鑑真和尚等、これなり、略中、この國にも行基菩薩、朗弁僧正など、權化の人なり、天皇、波

羅門僧正、行基、朗弁をば四聖とぞ申つたへたる、

〔大鏡二太政大臣基經〕御をのこ、四人おはしき、太郎左大臣時平、次郎右大臣仲平、四郎太政大臣忠

平といふに、略中、三郎にあたらせ給ひしは、從三位して、宮内卿兼平の君と申てうせ給ひにき、略中

この三人の大臣たちをよの人三平と申き、

〔大鏡五太政大臣兼家〕太郎の君、女院の御ひとつはらの道隆のおと、内大臣にて關白させ給ひ

き、次郎君は陸奥守倫寧ぬしの女のはらにおはせし君なり、みちつなと聞えさせて、大納言まで

なりて、右大將かけ給へりき、略中、五郎君たゞ今の入道どの、略長道におはします、略中、昭宣公基經

の御君達、三平とは聞えさすめりしに、此三ところをば、三道とや世の人申けん、えこそうけ給は

らずなりしかとては、ゑむ、

〔尺素往來〕將亦和漢古今名譽墨跡所望候、略中、於吾朝者、天皇嵯峨、大師弘法、兩御筆、并光明皇后、北

野天神以下、權者手跡者、非凡人所及候、道風、佐理、行成、稱之三賢候哉、略下

〔愚管抄七九條殿藤原兼實〕の子どもは、昔のにはひにつきつべし、三人までとりどりに、なのめなら

ず、この世の人にはほめられき、良道内大臣は廿二にてうせにし、名譽在人口、良經又執政臣にな

りて、同能藝群にぬけたりき、詩歌能書昔にはちす、政理公事父祖をつげり、左大臣良輔は、漢才古

今に比類なしとまで人思ひたりき、

〔臥雲日件錄〕寛正六年六月十二日、常忠居士來、茶話數刻、略中、因曰、後三條院代、伊房、爲房、匡房、又稱